

1 教科について

国 語

※ 全国学力・学習状況調査については、調査を実施した場合、調査実施後、改善計画に付け加える。(別紙5提出時には不要)

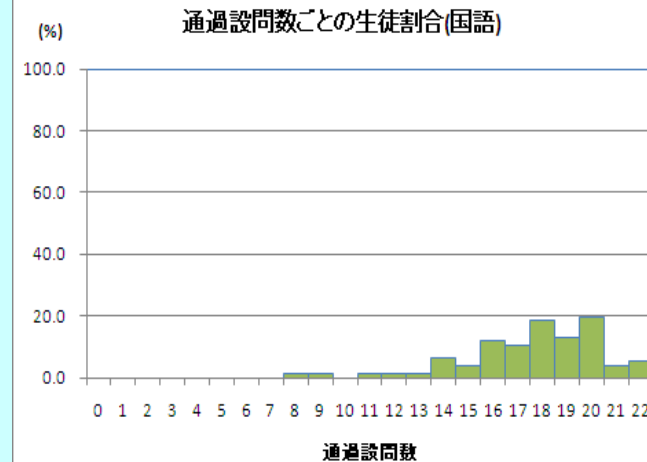
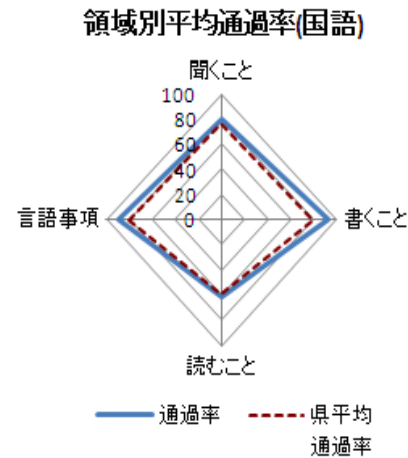
昨年度の課題

- ① 「言語事項」の領域において、主語述語の関係を捉える力が弱い。(50%)
- ② 「読むこと」の領域において、文学的文章で登場人物の心情を把握する力が弱い。(40.7%) また、説明的文章において、段落相互の関係を把握する力が不十分である。(27.8%)

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- ① 文法の時間だけでなく、教材文において省略された主語を考えさせたり、作文の指導において文のねじれを訂正させたりした。
- ② 文学的文章では、登場人物の心情がわかる部分に線を引かせ、叙述を根拠として心情をまとめさせた。
- ③ 段落ごとに内容を表にまとめ、それぞれの段落の役割を明確にして、相互の関係を整理させた。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 80.2% 県平均 73.2%



成果 ◎:「基礎・基本」定着状況調査
◇:全国学力・学習状況調査

- ◎・・・主語述語の関係→82.9%
三領域において、主述の関係を意識して指導を行った。
- ◎・・・段落相互の関係→65.8%
文章の全体構成がわかるように表や図にまとめる学習を行った。
- ◎・・・漢字の読み書き→89.09%
継続して感じ練習をさせ、週一回小テストをして定着を図った。

重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査
◇:全国学力・学習状況調査

- ◎・・・文脈上の語句の理解に課題がある。(43.4%)
- ◎・・・文学的文章において、展開に即して登場人物の心情を適切に捉えることに課題がある。(21.1%)
- ◎・・・説明的文章において、文の構成や論理の展開を捉えることに課題がある。(57.9%)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 文脈上の語句の理解を進めるために、辞書を引く習慣を身に付けさせ、文脈中での語句の使われ方について考える指導を行う。
- ② 文学的文章の指導において、会話文・心中語・表情・動作など、登場人物の心情が表れる視点を明確にさせ、その叙述に即して心情を考える指導を行う。その際、ペアやグループで意見を交流し、考えを深め合う工夫を行う。
- ③ 文章構成図を用いて文章の構成や論の展開を明確にする指導を行う。教科書教材だけでなく、新聞やパンフレットなどを用いて、情報の的確な理解を進めるとともに、自分の意見や感想を書かせる指導を工夫する。

来年度の目標値

- 「基礎・基本」定着状況調査の問題について、全問題についての通過率がすべて50%以上にする。
- 「基礎・基本」定着状況調査の問題について、県平均を5ポイント上回る。

中学校学力向上対策事業研究指定校 指導方法等の改善計画

数 学

※ 全国学力・学習状況調査については、調査を実施した場合、調査実施後、改善計画に付け加える。(別紙5提出時には不要)

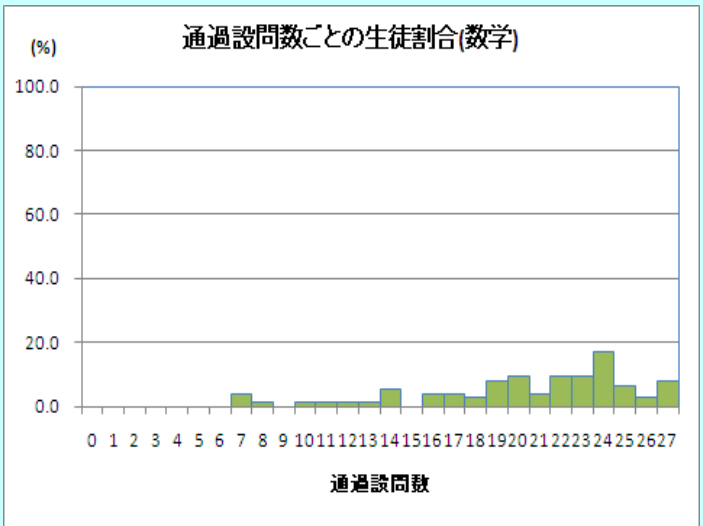
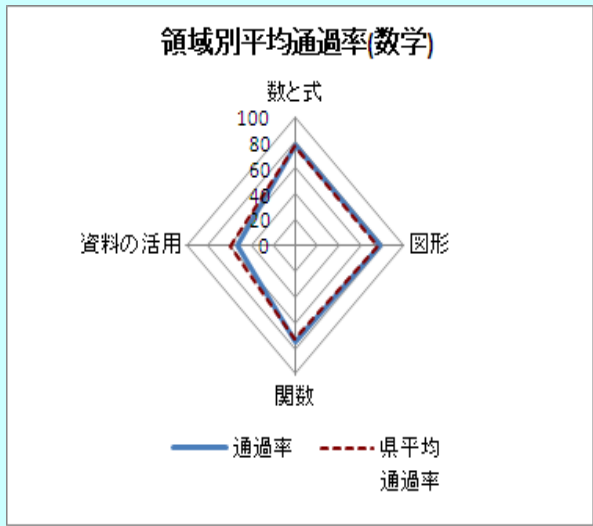
昨年度の課題

- ①統計の学習において、身近な事象を用いて度数分布表を作成する。
- ②文字式を用いて多様な数量関係を表す。
- ③根拠をもとに数学的に正しい表現を用いて説明する。

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- ① 実物の模型等、視覚的に示す教材により、定理や公式等の理解の定着を図った。
- ② 一次方程式を作成する問題では、“分かることから”，“分からないことから”を明確にし、等しい数量を言葉の式で表すなど、関係を明確にして、生徒同士で考え合う時間を多くとった。
- ③ 関数問題において、式・表・グラフを常に意識させるようにした。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **75.5%** 県平均 **74.7%**



成果 ◎:「基礎・基本」定着状況調査
◇: 全国学力・学習状況調査

◎・・・「1次方程式の作成」で68.1%
(H22) →76.3% 図や言葉の式。

◎・・・「関係を文字で表す」で51.9%
→63.2%具体的な事象による指導。

重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査 ◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎・・・「8-(2) 相対度数の意味」18.4%
- ◎・・・「4-(2) 垂直な面」32.9%
- 「1-(4) 累乗の計算」57.9%

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①統計の学習において、身近な事象を用いて度数分布表を作成し、具体的な内容で相対度数の必要性和有用性を学習する場面を増やしていく。
- ②立体図形の学習において、具体的な教具を用いることにより、面と辺、面と面の関係をより深く学習できるよう指導を徹底する。
- ③文字式の学習において、同じ文字の積が累乗で表されることを理解し、表現、処理できる力をドリルにより定着させる。

来年度の目標値

- 「基礎・基本」学力状況調査県平均8ポイント上回る。
- 「基礎・基本」学力状況調査通過率をすべて50%以上にする。

中学校学力向上対策事業研究指定校 指導方法等の改善計画

英語

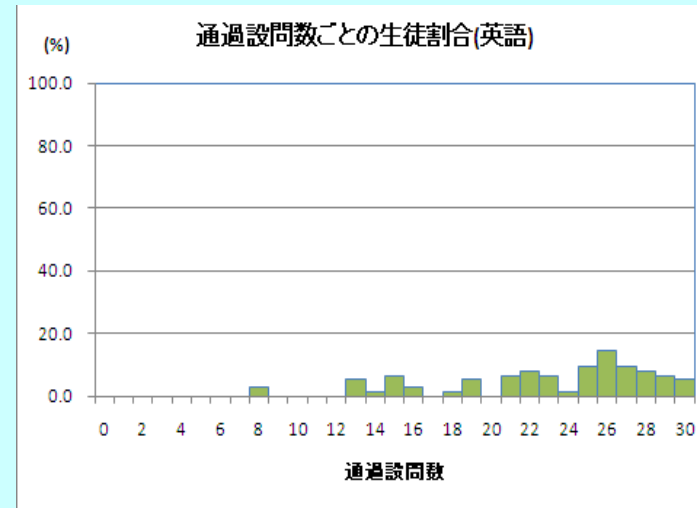
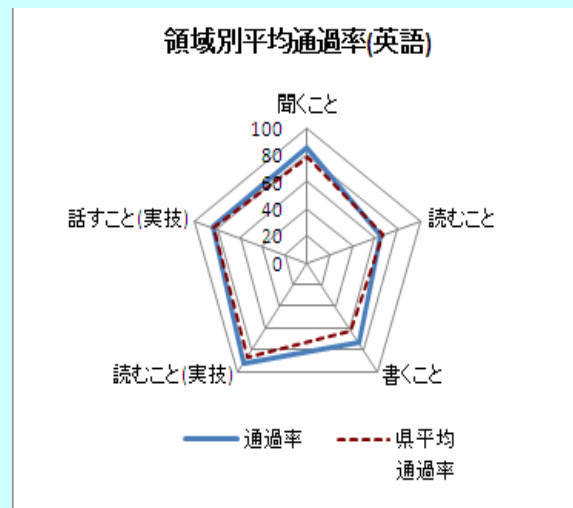
昨年度の課題

- ①「聞くこと」の領域において、13 (thirteen) 30 (thirty)との区別がつかず音声を的確に聞き取る力が弱い。
(通過率 64.8%)
- ②「読むこと」の領域において、文のつながりを考えながら主語と動詞の関係を読み取る力が弱い。(通過率 27.8%)
- ③「書くこと」の領域において、場面に応じてyes-no 疑問文を用いて簡単な文を書く力が弱い。(通過率 68.5%)

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- ①類似した単語を聞き取らせるために、単語カード等を用いて繰り返し練習させた。その際、リズムと視覚補助を用いて指導し、発音と綴りを意識させて正しく読むよう指導した。
- ②英文を読む時、主語と動詞を意識させるために、主語と動詞に印をつけ、文構造や文のきまりを理解して文の意味を正しく捉えられるよう指導した。
- ③毎日課題としている1ページノートに、実際に使用する具体的な場面を設定して英語で説明文(紹介文)を書かせたり、授業では日常の場面に適した表現を考えたりしながら、書く活動を繰り返し行った。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **76.4%** 県平均 **71.9%**



成果 ◎:「基礎・基本」定着状況調査

- ◎・・・「発音と綴りを意識し、音声を的確に聞き分ける力」
64.8%→77.6%
リズムと視覚補助を用いて指導し、発音と綴りを意識させて正しく読むよう指導した。
- ◎・・・「会話の場面に応じた適切な英文を書く」力
65.8%→77.6%
毎時間実際に使用する具体的な場面を設定した書く活動を取り入れた。

重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査

- ◎・・・「読むこと」の領域において、文のつながりを考えながら適切な語を用いて会話文を組み立てる力が弱い。
(通過率 21.1%)
- ◎・・・「書くこと」の領域において、文構造や文の決まりを理解して正しい語順や語法を用いて、文を書く力が弱い。
(通過率 47.4%)
- ◎・・・「話すこと」の領域において、単語や語句だけを用い、文で応答する力が弱い。
(通過率 78.9% H22年度 92.6%)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 英文を読むときに、一語一語の意味や、一文一文の解釈など内容の特定部分にのみとらわれたりすることなく、対話の内容を正確に読み取れるように指導する。
- ② 英文を書くときに、主語や動詞を意識させ、文構造や文のきまりを理解し、語の配列や修飾関係などの特徴を日本語との対比で捉えさせる指導をする。
- ③ 対話をするときに、誰について話をしようとするのかを意識し、文で応答する力をつけるために、第三者を話題にした対話文の練習を行う。

来年度の目標値

- 全問で通過率50%以上にする。
- 県平均通過率を5ポイント以上上回る。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，生徒質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，生徒質問紙）

(1) 生活・学習

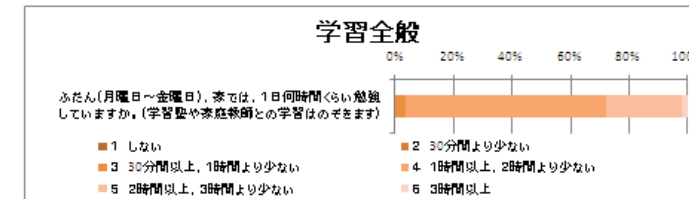
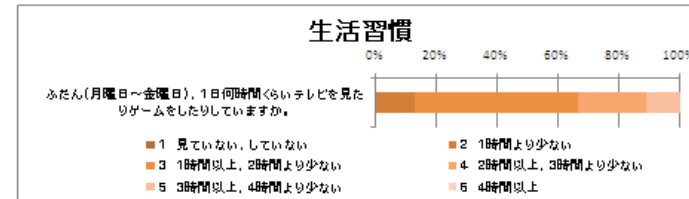
昨年度の課題

- ①平日に2時間以上学習する生徒が27.8%と、昨年よりも減少している。
- ②平日に2時間以上テレビを見る生徒が33.3%、1時間以上テレビを見ている生徒が87%いる。

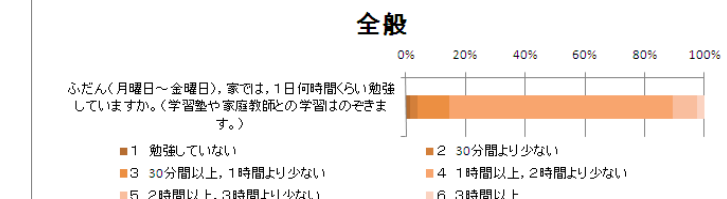
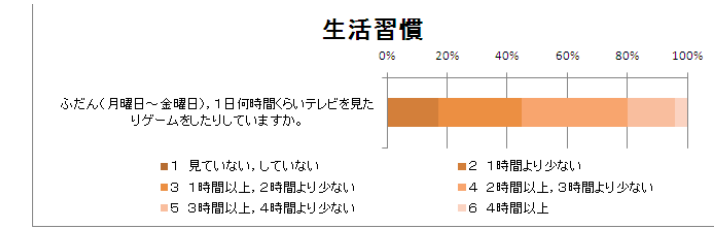
昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- ①家庭学習の習慣化やテレビを見る時間の短縮を図るため、引き続き「三点固定（家庭学習の時間・寝る時刻・起きる時刻）」の取組を進める。
- ②学習計画ノートに学習時間を記入させることや、生活アンケートを定期的に行うことで、家庭学習の意欲向上と行動化を図る。

H22年度



H23年度



取組の成果 (◎「基礎・基本」、◇「全国」)

◎・・・2時間以上学習する生徒が昨年度は27.8%であったが、今年度は10.5%と目標の40%という数値を大きく下回った。ただし、1時間以上2時間未満の生徒に関しては昨年度の68.5%から、今年度は75%に上昇している。また、平日に2時間以上テレビを見る生徒は、昨年度の33.3%から今年度55.2%と増加した。しかし、1時間以上テレビを見る生徒は昨年度の87%から今年度82.8%と減少している。

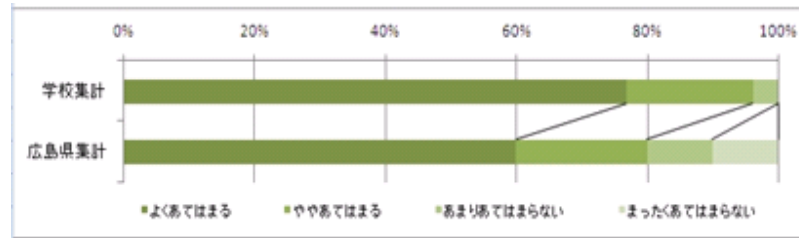
改善したい点 (◎「基礎・基本」、◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎・・・平日の学習時間が1時間未満の生徒が14.4%、休日の学習時間が1時間未満の生徒が27.5%それぞれいる。	◎・・・家庭学習の習慣化のために、引き続き「三点固定（家庭学習の時間・寝る時刻・起きる時刻）」の取組を進める。
◎・・・平日全く学習しない生徒が1.3%、休日に全く学習しない生徒が2.6%いる。	◎・・・学習計画ノートに学習時間を記入させたり、生活アンケートを引き続き実施したりしながら、生徒の生活実態の把握に努めると同時に、面談等により指導していく。
	◎・・・各教科担当と担任が課題提出について綿密な連携を取りながら指導していく。

来年度の目標値

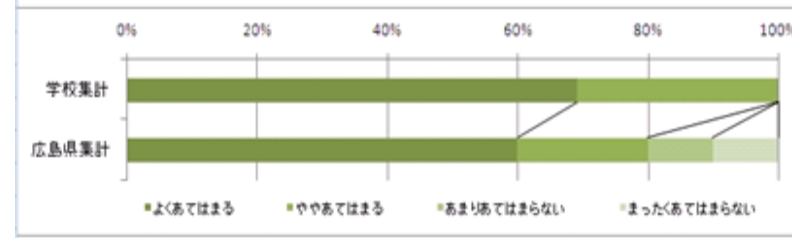
- ・毎日の学習時間が1時間未満の生徒の割合を10%未満にする。
- ・学習時間が0の生徒をなくす。

(2) 教科

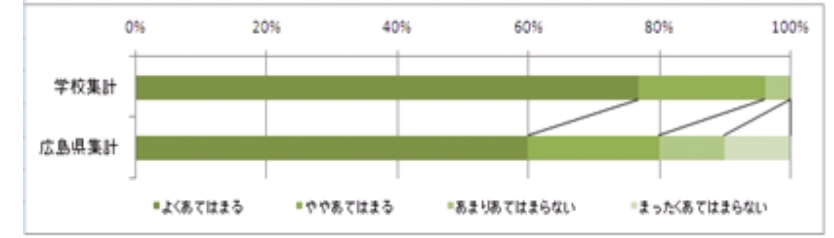
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



数学の授業はよく分かります。



英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。



	取組の成果 (◎「基礎・基本」、◇「全国」)	生徒の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」、◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎・・・「国語の授業では、物語などの文章を読むときには、場面の様子や移り変わり、人物の気持ちを表現している言葉や文に注意して読んでいます。」と答えた生徒が71.1%と、昨年度に比べて6.3ポイント増加した。言葉や表情、動作や情景など、心情が表れる視点を明確にした学習の結果と思われる。	◎・・・「国語の授業では、中心となる言葉や文に線を引ながら、文章を読んでいきます。」と回答した生徒の割合は、47.4%と、他の質問事項に比べ低い。読み取り方についての指導に課題がある。	・文章を読んだり内容を読み取るときには、線を引いたり文字を囲んだりしながら読ませる。また、表や構成図にまとめたりしながら、文章の構成を意識しながら考えさせる指導を行う。
数学	◎・・・「数学の授業では、おうぎ形の問題を考えるとときには、いつももとの円をもとに考えています。」にあてはまると回答した生徒の割合が68.5%から72.4%と上昇し、前年度に比べ3.9%向上した。	◎・・・「文章に書かれている関係を式に表すために、言葉の式や図を使って考えています。」にあてはまると回答した生徒の割合は63.0%の前年度に比べて今年は53.9%と9.1%低下し、依然として思考を大切にしたい取組になっていない。	・「書く活動」「発表」において、考えや解き方を説明する時間を今まで以上に確保する。 ・理由や考えを説明する場面では、その内容を細かく評価し、全体で共有する。
英語	◎・・・「英語の授業で学んだことが、他の教科や生活の中で、読んだり、話したり、コミュニケーションをとったりすることの役にたつ」と答えた生徒が82.9%と昨年度に比べ21.4ポイント増加した。授業内外での英語でのあいさつや、実生活に結び付けた活動などを取り入れたためと思われる。	◎・・・「英語の授業では自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。」と回答した生徒の割合は38.2%と、全調査項目の中で極端に低い。コミュニケーションを楽しんだり、意志表示を示したりする表現力に課題がある。	・授業の中で自らの考えや思いを述べるための場面を増やし、発話につなげる取組をする。問答、意見交流など、様々な場面を作り、発話に対する抵抗をなくし、自信を持って表現する力をつけていく。

来年度の目標値

- ・「国語の授業では、中心となる言葉や文に線を引ながら、文章を読んでいきます。」と回答する割合を前年比で5%アップさせる。
- ・「数学の授業では、理由をあげて自分の考え方や解き方を説明しています。」と回答する割合を前年比で5%アップさせる。
- ・「英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。」と回答する割合を前年比で5%アップさせる。

指導改善のための実施スケジュール

